

『木工の可能性—果物入れのデザイン2/3スケールの制作—』

高知県立高知丸の内高等学校
島 武史

学校紹介 全日制単位制普通科・学年制音楽科
対象学年 2・3年
制作時間 18時間

コンセプト

他国で作られた工芸品の中には、その発想の豊かさに驚かされるような作品に出会うことがある。自然に対する感覚の違いや素材の可能性を教えてくれる感性豊かなそれらの作品に出合った時、人は感動を体験するとともに、自らの創作意欲を刺激され、創造力を持って作品制作してみたいというきっかけの一つになるだろうと思う。

作品制作の場面において感性を働かせるためには、参考作品等の鑑賞によって刺激や発想の手掛かりを与え、生徒達の内面に働きかけることが必要である。今回はカナダの木工芸品を鑑賞し、その柔軟な発想力や素材の生かし方・技法などを学び、理解を深めるとともに、そこからさらに感性を働かせて、個性豊かなオリジナル作品制作まで発展させていきたいと思う。

準備するもの

木材(30cm×22cm×2cm)、糸のこ機械、着色剤、バイス、画用紙、タコ糸、ピン、サンドペーパー、ウエス、ハサミ

制作手順

- ① 図案の構想を練る。今回は自然物からの構想とする。
- ② 画用紙の中心部分にピンとタコ糸で楕円形を描き、その周囲にアイデアスケッチ。出来るだけ大きく図案を描き、切断部分を少なくする。
- ③ 決定した図案をハサミで切り取り、それを型として木材に写す。
- ④ 最初に楕円形部分を糸のこ機で切断し、渦巻状に切り込みを入れていく。
- ⑤ 描画の輪郭線を糸のこ機で切。立体感を表現したい箇所には彫刻刀を使って線彫りや浮き彫りを施す。
- ⑥ 全体にサンドペーパー掛け、しっかり立つようにスタンド部分をデザインし切断する。
- ⑦ 木工用着色剤をウエスで擦り込む。
- ⑧ 楕円形部分の両サイドにドリルで穴をあけ、回転軸となる棒を差し込み本体と結合する。スタンド部分を木ねじで固定する。

制作風景



全体的なデザインを考える。



板材に図案を写す。



楕円形部分に渦巻を描く。



杉板を使って何度か練習する。



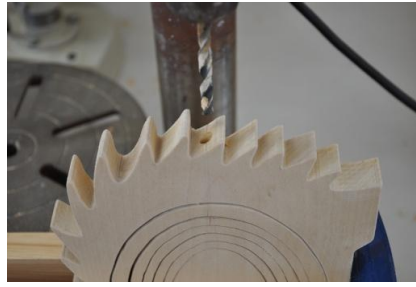
楕円形部分を切り抜く。



渦巻のラインに沿って切る。



全体にサンドペーパー掛け。



両サイドに棒を差し込む穴をあける。



6mmの棒を差し込み片側接着。



棒の飛び出し部分を切断し、スタンドを木ねじで固定。



この後、全体に着色剤を塗布して完成。

完成作品



コメント(まとめ)

今回の作品制作においては糸のこ機械の扱いにある程度習熟しておく必要があるが、生徒達はまったく初心者であったため、本番の前に安い価格の杉材を使って切断の練習を行った。制作時間の約半分を練習に当てることになったが、おかげでかなり上達し工芸品としての完成度を高めることが出来たと思う。また、今回の制作では東北大震災の影響で岩手県産の幅広の材木の入手が困難となり、作品サイズを2/3スケールとして制作した。